

ある日の育児日記から

(79)

佐藤 和代



有は五歳になったところ。四歳と五歳って、ずいぶん違うものだと感じています。何が違っていて、ゲームのとき使えいものになるのが一番。ババヌキでも神経衰弱でもすぐろくでも、一人前に参加できる。これでもう圭と二人でゲームしなくてもいいんだわ（二人でやるババヌキほどあほらしいものはないんだから！）。やっと我が家も、「幼児二人」から「子ども二人」というかんじになってきました。

とはいえ、まだまだ圭と有だけでゲームに興じる、というわけにはいきません。たまに二人で始

めてしまうと、五分もたないうちにケンカが始まってしまうので。あーあ、またやっつるな、と見に行くと、たいてい圭が怒りまくっているのです。「有ったら、六が出たらあがりだからって、サイコロの六を上にして置けただけなんだよっ！ ちゃんところがさなきやいけないだよ！」

まあ、ゲームのルールがわかるようになったって、ルールの何たるかはよくわかってないのでしよう。相手が大人なら笑ってしまいう稚拙なずるでも、圭は本気でいきりたってしまうし……。二人で仲良くゲームができるって、簡単に見えて、高度な(?)成長を必要とするのですね。



子どもの作品群。どうしてあんなに困ったの。